

JSCA 千葉ニュース(夏)

発行(社)日本建築構造技術者協会 JSCA千葉(広報委員会)
〒261-0004千葉県千葉市美浜区高洲3-20-38(株)齋藤建築設計事務所内 TEL 043-277-5005
FAX 043-277-0906

JSCA・千葉 第12回総会開催される 記念講演は金箱温春先生の 「改正基準法と構造設計」

平成21年6月1日(月)午後3時~5時三井ガーデンホテル千葉にて平成21年度の定期総会が28人の出席をいただき開催され、齋藤代表から以下の挨拶がありました。

- ・我々を取り巻く社会的環境が大きく変化してきている。
- ・構造設計一級建築士制度の施行は我々の業務に対する責任負担をさらに増加させることとなっている。
- ・業務責任に見合う報酬の確保に努力する必要がある。
- ・新しい報酬規定(告示第15号)をいかに円滑に運用してゆけるか。その点において大いなる努力が必要である。

・法に準拠した行動、業務責任と報酬のバランス、さらに公益法人化を目指すJSCAの活動と社会的



第12回通常総会の準備風景

役割への自己認識の重要性はさらに大きくなってきている。

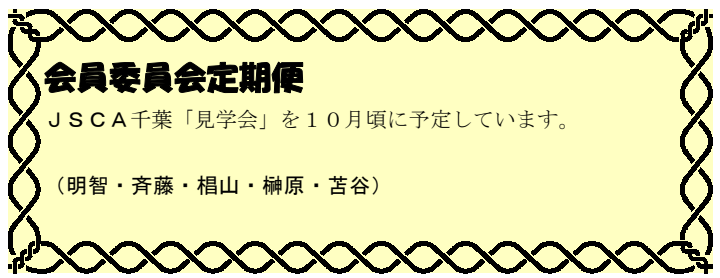
今後とも会員のたゆまぬご協力を頂きたい旨の言葉で締めくくられました。

平成20年度の活動報告、決算報告、平成21年度の活動計画、予算案について審議が行われ、共に出席者全員の承認を頂きました。

(二面に続く)

JSCA千葉役員会議事録抜粋(佐藤)

役員会	加藤 義道	に備えての危機管理マニュアルについて	1. JSCA本部および関連他団体についての報告	資への案内担当(H21・6月1日)
代表 齋藤美佐男	富島 誠司	2)確認申請サポートセンターへの協力について	2. 柏崎刈羽原発耐震補強見学会の報告(4月12・13日17名参加)	2)長期優良住宅の適合性判定について
副代表 向後 勝弘	市原 嗣久	第11回3月25日 (16:00~18:00)	出席:齋藤代表他12名	3)適合性判定員の内部監査員について
総務委員会 園部 隆夫	富島 誠司	1. JSCA本部および関連他団体についての報告	1)本年度総会の各行事担当について	第3回6月1日 (13:30~15:00)
向後 勝弘	榊原 裕繁	2. 検討事項	2)学校耐震改修における手続きの迅速化について	出席:齋藤代表他25名 (総会と役員会を兼ねる)
園部 隆夫	園部 隆夫	1)鉄骨工業会との意見交換会について	3)平成20年度事業報告について	1. JSCA本部および関連他団体についての報告
長内 光雄	加藤 義道	2)内部留保金の運用について「災害対策積立金」・「記念行事積立金」とする話し合い。	第2回5月14日 (16:00~18:00)	2. 検討事項
佐藤 暢彦	佐藤 暢彦	出席:齋藤代表他11名	出席:齋藤代表他10名	1)平成20年度の事業報告及び会計報告
西澤 博文	明智 孝夫		1. JSCA本部および関連他団体についての報告	2)平成21年度の事業計画及び予算案報告
会員委員会 明智 孝夫	向後 勝弘		2. 検討事項	
齋藤 利彦	飯島 宏治		1)総会行事予定の確認と来	
相山 誠治	真崎 雄一			
榊原 裕繁				
告谷 修作				
研修委員会 園部 隆夫				
市原 嗣久				
西原 忠				
竹下 章治				
西澤 博文				
広報委員会 安田 良一				
告谷 修作				



(一面からの続き)

審議、意見交換の中において、以下のような提案がなされました。

- ・活動報告の中に示されているように、J S C A千葉の会員がJ S C A本部の技術委員会における各種委員会、日本建築学会の各種委員会、関連団体の研究会などに数多く参加し活動していることから、ストラクチャーなどの機関紙報告だけでなく、会員同士が会し、直接的に情報の交換、共有ができる場を持ってほしい。

上記提案につきましては、研修委員会、技術委員会、ホームページ運営委員会、会員委員会などの委員会にて具体的に企画検討をしていきたい旨回答がなされた。

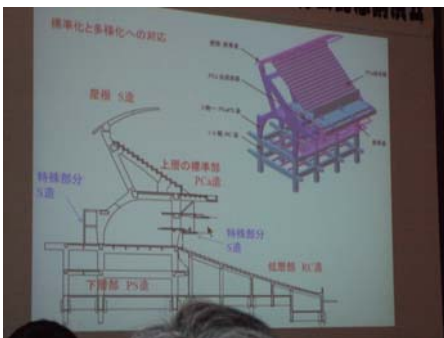
J S C A・千葉 平成21年度定期総会記念講演会

定期総会後の午後3時より行われた定期総会記念講演会は「改正基準法と構造設計」というテーマでJ S C Aの理事

でもある(有)金箱構造設計事務所 代表取締役 金箱温春様に講演を頂いた。J S C A・千葉監査役の(有)マサ建築構造設計室 代表取締役・真崎雄一氏より講演前において、講師紹介を作品の紹介とその背景、人間性に触れるインタビューが行われました。



出席者は行政関係の方々、設計事務所の若き所員、関連団体の方々、賛助会員の企業の方々をふくめ120人を越える出席を頂きました。



上：金箱温春 下：先生の作品から

講演に先立ち、齋藤代表より
・社会は何を建設業関係者に求めているか。

・安心な建物を作るシステムはどうあるべきか。

べきか。

- ・構造設計者として我々はどうあるべきか。

について金箱氏の講演を大いに参考としていただきたい旨

の挨拶がなされました。

金箱氏より

- ・意匠設計者の理解と協力が重要であること。
- ・適切な設計時間と報酬が必要であること。
- ・法制度に負けない(戦う姿勢)努力が必要であること。
- ・無茶はできないが、創造的、個性的な設計努力の要望。
- ・耐震改修工事はとても重要であり、環境改善も含めた設計手法にも努力してほしい。

といったメッセージをJ S C Aの委員としての活動、自らの設計作品を通し、具体的な課題とその解決のための話題の展開という形で講演が進められました。

最後に、約7000人の構造設計一級建築士がJ S C Aに集結できるよう協力を頂きたいこと、さらにJ S C Aが安心安全な社会資本づくりに大いに活躍できるよう協力頂きたい旨の言葉を頂き、講演は活発な質疑に伴う意見交換の後終了いたしました。

J S C A・千葉平成21年度定期総会 懇親会

講演会の後夕方5時30分より、同ホテルにて80人を超える出席を頂き、懇親会が開催されました。

行政、関連団体、賛助会員の企業の方々、会員事務所の将来のJ S C Aを支える若手構造設計者など多くの参加を頂きました。お忙しい中、本当にありがとうございました。

齋藤代表からは江藤晋平の業績を例に取り、法律(基準)運用が国民に主権が移るような裁判員制度の運用が始まる今、我々も自主性を持って、社会に貢献すべく、法遵守を前提に安心安全な都市づくりに積極的に参画し、努力してゆく必要がある等の挨拶がなされました。

会員であります真崎氏のバンド演奏および歌声により、懇親会は明るい雰囲気、建設業界の不景気を吹き飛ばすような楽しい一時を過ごすことができました。

二次会は若手技術者とベテランが三々五々それぞれの場所で楽しいコミュニケーションの時間を過ごされたという報告を受けました。



ハンクマサ&リジェンド カントリー

皆様のご協力に心より御礼申し上げます。

(園部隆夫 記)

妙正寺本堂造営工事現場見学会に寄せて

見学日時：平成21年5月7日午後1時
 見学場所：千葉県市川市北方町4丁目2122番地
 工事概要：日蓮宗妙正寺の本堂新築工事
 木造平屋建て、170.23 m²
 高さ、軒高 10.367 m、5.313 m
 基礎 ベタ基礎

連休明けの初日に、ちょうど建て方中の現場に着いて、骨組みの外観が見られる時で張り詰めた空気が徐々に伝わってくる感じのなかで、説明会場に移動した。



建て方中の妙正寺本堂

最初に、設計者である仲村先生の紹介を、構造設計者でJSCA会員の真崎さんからさせていただいて、先生の考えや設計方針並びに経

歴等のお話をお聞きした。真崎さんの紹介でも触れられていたように、図面が大変良く書かれていて深い知識と人間味が感じ取られて、見学者がたくさん（外に、学生さんがおられました）いても、肌合いが心地良いと思いました。

真崎さんより構造の手法や設計方針を、実験などをふま

えた苦勞の端々を披露していただきました。伝統工法の要である差し物や臍また貫を、バネ接合に置き換えて許容応力度設計をクリアしたとのことでした。さらに立体解析に乗せたの



1階柱脚のガラスカレットとのコラボ

でいろいろな面で苦勞されたこととお話していただきました。又この建物は基本的には、ラーメン構造で柱脚が一部固定である。コンクリートと木造の柱が押し合いによる曲げモーメントおよびせん断力の処理をしている。聞くは簡単ですが、想像するにも大変なことをやっているなあと感じました。柱脚の湿気処理も新しい部材で、構造と意匠のすり合わせを考慮されていました。

続いて、真崎さんの雑談の流れからの質問がいろいろ出て、木造の約束ごとの大切さや、長いスパンでの考察（弱点も含めた）で設計や工事に携わっていることが伺えました。何か、木の持つ可能性というか、肌合いがいいというか、ますます木の魅力に惹きつけられた感じを持ちながら、帰路に着きました。大変有意義な時間と空間であったと思い、改めて真崎さんの、ご好意に感謝いたします。

（西原忠 記）

柏崎刈羽

原子力発電所の見学会に参加して

平成21年4月12～13日にかけて新潟県にある東京電力柏崎刈羽原子力発電所に行きました。平成20年の秋から企画していましたが、21年の春にやっと実現しました。

企画及び実施において多大な協力していただいた東京電力千葉支店長さんをはじめとする千葉支店の皆さん及び現地発電所の皆さんに大変お世話になりました。ありがとうございました。

電車の事故により、千葉駅を予定より30分遅れての9時に出発し、西船橋駅で5人が合流して総勢21名のバスツアーとなりました。

昼食を谷川岳のふもとの新鮮な空気と大きななかまぐらで涼を感じながら頂き、おなか一杯となりました。

途中TEPCO電源PR館奥利根に寄って、発電方式の基礎知識を確認しました。

皆さんなかなかの高得点でした。ホテルでは、夕食とおいしいお酒をいただきました。

震度6強の中越地震から1年8ヶ月余り、震災復旧はどのように進めているのか耐震設計や補強設計を生業としている者として興味がつきません。いよいよ明日は原発だ！。

ホテルからバスで原発に向かいました。まだ外構には傷跡が残っていました。サービスホールにて地震力の設定・被災状況・補強の現況について説明を受け、質疑応答をしました。いよいよ、原子炉建屋の見学です。警報装置も付けてセキュリティーゲートを何度も通り、靴と靴下を専用のものに変えて、やっと原子炉の近くです……



7号原子炉を背景に

……
 地下30～50mに建屋の基礎を置く大きな箱のような建屋に被災はなかったそうです。原子炉プラントへの配管・クレーン・外構等は被災しましたが、原子炉の安全の基本は「止める・冷やす・閉じ込める」だそうで、中越沖地震のときも確実に機能したそうです。

一般の建築においても構造体の安全性は高まっていると思いますが、2次部材や仕上材・設備の被災による建物の機能停止は十分に起こりえます。道路に目を向けると電線等のライフラインの地下埋設化が進んでいますが、被災時の点検はどうするのでしょうか。今後、美しさと環境と被災時の復旧のしやすさを考慮した構造的に美しい建物を計画しなければと思いました。

（齋藤利彦 記）

マサコラム 16

地球の真実の歴史

前号に引き続き書評形式で、あちらからくる宇宙ものはかなり手当たり次第に読んでいますつもりですが今回の文庫本はスゴイ、今までの断片的情報がかなり系統的に書かれています。タイトルは「生きて意識ある地球はこうして生まれた」アマーリエ著 五次元文庫 徳間書店発行

地球は**数十億年前**に太陽から飛び出した惑星、最初は火の玉のように赤く燃えていたが太陽の周りを回る内に冷えてきた、その後、月が地球から飛び出した。

六億年前「ブッダ」が金星から地球に移住、**ブッダ**「黄金」が地球神霊に人類創造を依頼、その結果、宇宙連合より射手座からアモール(キリスト「白」)、蟹座からモーリヤ(モーゼ「赤」)、白鳥座からセラビム(孔子)、が応援に来る。**三億六千五百万年前**にマゼラン星雲のベーエルダ惑星からエル・ランテイ(ヤハウェ)と共に六千万人が地球に移住、その際の宇宙母船の長さ1キロメートル幅500メートルが五千機、その後、モ

ーリヤ(モーゼ)の惑星から二百万人(身長4メートル角2本、目が一つから3つまで、形相は鬼)呼び寄せる。次に、セラビム(孔子「紫」)の惑星からも移住する。**三億年前**にオリオン星雲の芸術の惑星からマヌ「緑」、カイトロン(ニュートン「銀色」)ら十億人が移住(但し肉体数百人で他は霊体)彼らは半透明で背中に羽が生えていた。色模様形は個性的で天使の姿) **一億三千年前**にペガサス座から**ゼウス**「青」と**ゾロアスター**「赤」が二十億人引連れ移住(全員霊体)その後、多くの惑星から移住者を受け入れる。地球と言う惑星は宇宙でも稀な他民族惑星との由、初期の移住者の一億年位は地球環境に適した肉体創りに費やされた(遺伝子操作で種々の人種を掛け合わせる)との事で我々が考えている数百万年前にアフリカで生まれた類人が進化して数十万年前に現在の人類が出来たのではないそうです。本の巻末には「難しく考えないで地球の物語として一つでも二つでも読者の心に響く物があれば幸いですと書かれています」。一冊686円(税込み)の、お手頃価格で、お薦めの衝撃図書です。我々がお世話になっているニュートンはオリオンの星でも科学担当であった由。 真崎雄一

高精度配筋付デッキ

スーパーフェローデッキ

従来の働き幅400幅に600幅デッキも加わり、製品の多様性により、各種現場に対応できる配筋ピッチが実現!!

(三角鉄筋トラス付デッキ)



約12mの長尺デッキと敷き込み例



ケンテック株式会社
東京都知事許可(般-20)第121699号

本社 〒101-0031 東京都千代田区東神田2-1-8
建築本部 Tel 03-3866-2106(代) Fax 03-3863-1045
E-mail: kanda-kentec@kentec-web.co.jp
http://www.kentec-web.co.jp/

編集後記 (2009. 7. 22)
檜山節考では、70歳の冬に息子に背負われ檜山へ捨て置かれるという(口減らしの)村の掟に従う母親、全ての役目を果たした後の、無私といふ美しい死の一形であるが、70歳前の春に息子をついでカバンを譲るといふ議員の掟、私利私欲に駆られ逼迫財政にたかる銀髪の蠅のふるまいと映る。
親が子を折檻死、子が親を刺殺する、

病膏育の現代とは情愛の深さにおいて相容れない、古き良き日本はいずこへ。
江戸時代、難波でこんな戯れ歌が流行していた(とか)。/飛脚の元締め西川さんてあまりに誰か 河馬って苛して どげんきゃの人 魔貫うと/あまりに堂々 うたてし事も なんやいいこと やらはつると 錯覚しますわチイパッパ。/大風腐河馬 その後は なんも官もがさっぱりと/そうはならんで こんどばかりは 羅生門前 魍魎魍魎/不

正と郵でもメリケンのためウリツクス 商會が 1両で乞うた 飛脚の宿を 千両六つで売ったこと だけじゃおま変 竹の夜露。/まあ仰山の 旗本が 与りました お相伴/ので奉行所も 身動きが で毛変のやて いつからか こないな世の中 になりました/しばらく正義が見えしまへん お天道様も あら不思議 たまには天の声訊けと お隠れになるお屋前 天変地異の前触れか。/ま、はやつてなかつたと思います。(安田)